

生活に困窮する氷河期世代への支援について

実態把握調査結果 <速報>

福祉部管理課

1 背景

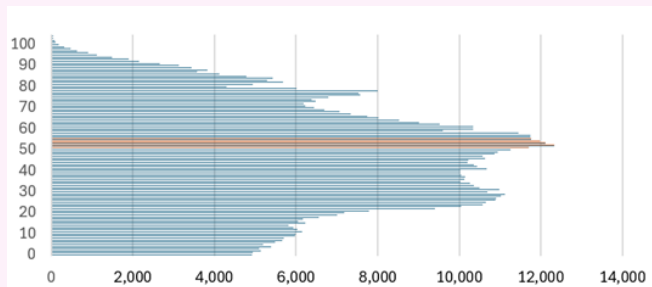
就職氷河期世代とは

バブル崩壊後の雇用環境が厳しい時期に就職活動を行った、**40歳代前半から50歳代前半**の方々

氷河期世代が抱える特有の課題

人口規模が大きく、将来の支え手が少ない

団塊ジュニア世代16.5万人(全体の22%)



複合的な課題を抱えている

「不安定就労」、「人間関係などに関する心の悩み」、「親の介護」

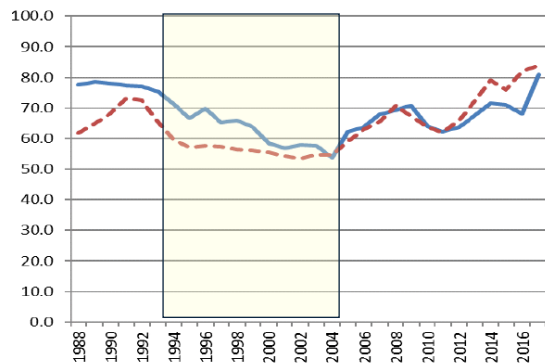
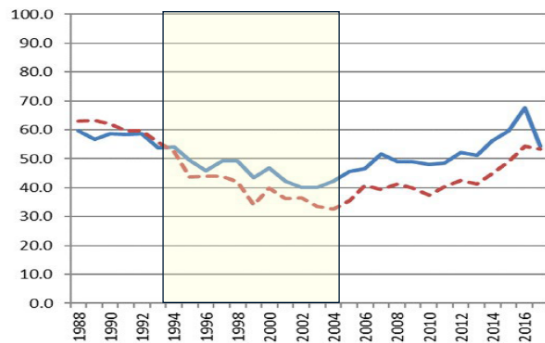
支援につながりにくい

「親が本人の課題(ひきこもり)」を「本人が親の課題(介護)」を家庭内で抱え込んでいる。

1 背景

氷河期世代の就職・家族介護に関するデータ

卒後正社員就職率の推移



高卒男性
高卒女性

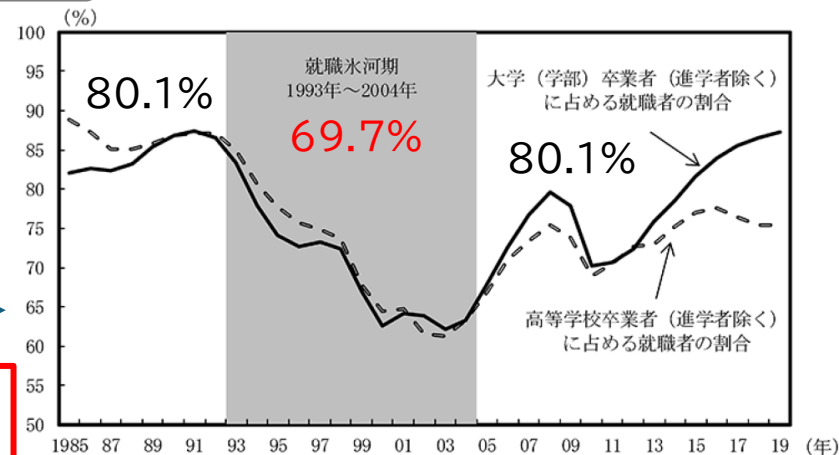


氷河期世代は
他世代と比べ
就職環境が悪い

大卒男性
大卒女性

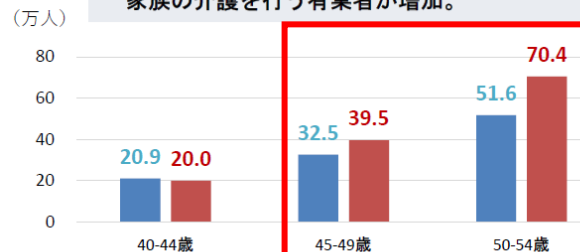
資料出所：労働政策研究・研修機構（2019） 単位：％

大卒の就職率の推移



家族の介護を行う有業者

→就職氷河期世代は、10年前の同年代と比べ、
家族の介護を行う有業者が増加。



■ 2012年 ■ 2022年

2 国や都における支援策

就労準備段階に至る前の支援の不足

就労に向けた活動ができる方に対する支援

就労準備段階の支援

- ・ビジネスマナーの習得
- ・コミュニケーションスキルの向上
- ・職場実習

就労体験 (中間的就労)

- ・認定就労訓練事業
(法人格や支援担当者の配置等が必要。)

(例)

- ・特別養護老人ホームでの清掃、介護補助
- ・スーパーでの商品仕分、清掃

正規雇用に向けた支援

- ・公務員、教員等の直接雇用
- ・資格取得支援
- ・非正規雇用から正規雇用
に転換する企業への助成

3 区の取組

5年度から、中高年のひきこもりや8050問題など複合的な課題への対応を強化

要支援世帯



複合的な課題を抱えながら、支援につなげていない世帯

1 相談窓口の明確化

社協のセンターを、ひきこもりや8050問題等、どこに相談してよいか分からない方の相談窓口位置付け

電話・窓口相談

2 アウトリーチ型支援

センターの「地域福祉コーディネーター」が、要支援世帯の情報を地域から収集して、個別訪問

民生委員・町会・自治会等

見守り・発見

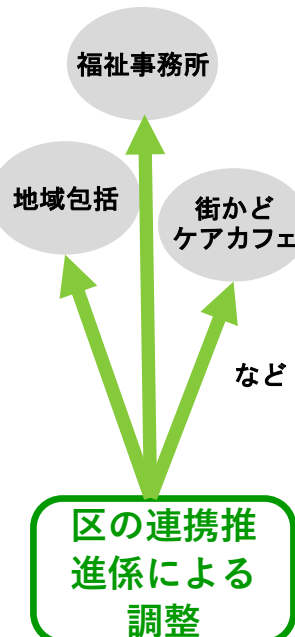


情報収集

家庭訪問

ボランティア・地域福祉推進センター

既存の支援



3

社会参加に向けた居場所支援(2か所)

就労準備から居場所支援を実施

あすは
ステーション

練馬：練馬1丁目
大泉：東大泉7丁目



就労準備支援のためのセミナーやパソコン教室、
就労定着支援のための職場訪問などを実施する拠点の
機能を拡充。

【主な取組】

- ・当事者同士の交流
- ・家族支援（講演会や相談）
- ・パソコン体験

支援につなげていない方（住民税非課税の氷河期世代22,000名の85%）のニーズ把握が必要

4 実態把握調査

【令和8年5月】大規模なニーズ調査

23区初

4,000名へのアンケート調査

住民税非課税の40～54歳(22,000名)から抽出

◆調査内容

- ・雇用形態の実態を把握
- ・雇用形態の変遷を把握
- ・就労に関する今後の希望を把握
- ・困りごとや不安に関する内容を把握
(住まい、介護や育児の負担 等)



◆スケジュール

中間まとめ: 6月中旬

速報結果: 6月下旬

当時者・支援機関(専門職)へのヒアリング

◆対象

- ・既に支援している方15名
- ・10支援機関職員など



アンケートでは把握しきれない共通する課題や傾向等を把握

5 調査結果(全体の状況)

実態把握のためのアンケート調査

- ◆調査期間 令和8年5月12日～令和8年6月4日
- ◆回答状況 733件（紙378件、WEB355件）/3,928件（有効数） 回答率：18.7%
- ◆特徴
 - ・8割が、健康面や仕事上のスキル等を理由とした離職・転職を経験している
 - ・3割が、望まない非正規雇用で10年以上経過している。
 - ・4～5割が、将来的な家族介護や収入の不足等の不安を感じている



当事者へのヒアリング

- ◆対象 ボランティアセンターおよび生活サポートセンターの支援を受けている方
- ◆特徴
 - ・望まない離職や非正規就労への移行
 - ・家族依存
 - ・将来的な住まい確保への不安

支援機関(専門職)へのヒアリング

- ◆対象 障害者地域生活支援センターすてっぷ、ねりま若者サポートステーション、あすはステーション、ねりま不登校・ひきこもり・発達障害地域家族会「灯火」、ハローワーク池袋、中高年企業団やまて企業組合、（特非）KHJ全国ひきこもり家族連合会
- ◆特徴
 - 社会的孤立と対人関係の脆弱性
 - 自己肯定感の低さ

仕事、住まい、健康、介護等、分野横断的な課題や不安を持ち合わせている。

6 調査結果と課題

【回答者】 4割が家族の介護支援に不安

【支援機関・専門職の意見】家族介護者支援の充実が必要

課題
1

相談支援

居場所や職場の開拓・マッチング・定着支援

課題
4

生活支援

家族介護等を見据えた支援

相談



【回答者】

3割が、居場所での交流の機会を必要

【支援機関・有識者の意見】

- ・マナー講座などのプログラムの充実
- ・個々のニーズに応じた居場所支援の実施

課題
2

居場所支援

居場所
支援

就労
準備

ボラン
ティア

課題
3

就労支援

職業
体験

中間的
就労

一般
就労

【回答者】

3割が体調や障害に配慮した柔軟な就業（短時間や1日/週等）を希望

【支援機関・有識者の意見】

- ・協力事業者に対する助成が必要
- ・労働として対価(賃金)が支払われる仕組みが必要